

大切な型(フォーム)

西宮香風高校のみなさん、おはようございます。

いよいよ、令和3年度が始まりました。何かが始まる時というのは、期待とか、不安とか、やる気とか、心配とか、とにかくいろいろな気持ちがごちゃごちゃと混ざり合って、不思議な気分になりますよね。安らぎというものとは明らかに違う感覚なので必ずしも快適とはいえませんが、それはそれでとても自然で、大なり小なりみな似たような状態になっているはずなので、気にすることはありませんよ。

むしろ気にしたいのはコロナウイルスの方ですね。とはいえ私たちが直接ウイルスをどうにかできたりしませんから、私たちにできることで、実はウイルスの力を弱めてしまおうというお話です。

今回のコロナウイルスは三つの顔を持つ伝染病だといわれています。

一つ目は「病気」という顔です。これはそのまま、人から人に伝染して、熱や咳で体を苦しめるものだということです。これに対しては手洗い、マスク、換気といった今まで通りのやり方を誠実に続けることで対抗しましょう。

二つ目は「不安」という顔です。正体が分からないということで「不安」を伝染させて、人々の心を苦しめます。「不安」や「恐れ」は身を守るために必要な感情ですが、度が過ぎると私たちから冷静な判断力を奪ってしまいます。これに対しては、自分自身をゆっくり見つめる時間を作り、いつもと違う自分になっていないか、悪い情報にばかり目を向けていないかを確認してください。不安な時ほど、いつもの生活習慣やペースを保ち、安心できる相手とつながることが大切です。

三つ目は「差別」という顔です。人の生きようとする本能につけ込んで、ウイルス感染に関わる人を遠ざけようとする心を伝染させます。これに対しては、差別的な言動に同調しないで、確かな情報だけを広めましょう。感染した人やその家族はもとより、エッセンシャルワーカーと呼ばれるコロナ禍でも休めない人たち、たとえば医療・福祉従事者、スーパーなどの小売業界で働く人たち、物流に関する郵便配達員やトラック運転手、ライフラインに関わる従事者など、この事態に対応しているすべての人々に労いと、敬意を払いましょう。コロナが「病気」だけでなく「不安」や「差別」までも広めようとしても、私たちの対応次第で、その広まりを止めることができるのです。

と、ここまで話して、実はあることに気がつきました。基本的なことを誠実に続けたり、い

つもの生活習慣やペースを保ったり、安心できる人とつながったり、一生懸命働いている人に感謝したりするということは、コロナでなくてもすべてのことに通じる大切な型(フォーム)なんじゃないだろうかと思います。ピンチはチャンスです。コロナとの戦いを強いられるこんな時代だからこそ、あらゆる場面で自らの支えとなる、人としての大切な型(フォーム)を身につけていく一年にしていきましょう。

令和3年4月9日

兵庫県立西宮香風高等学校
校長 谷口 暢謙